

第2回刀根山病院市民公開講座 「物忘れ：認知症（痴呆症）を知ろう」

主催：刀根山病院
共催：豊中市 （社）豊中市医師会 大阪府豊中保健所

平成17年11月12日（土）に阪急豊中駅前の豊中すてっぷホールにて、「物忘れ：認知症（痴呆症）を知ろう」と題して「第2回刀根山病院市民公開講座」を行いました。
そのプログラムから一部をここで紹介させていただきます。

注：大阪府では保健所を通じて「痴呆症」を改め、「認知症」を公用語としていますが、医学用語としては「アルツハイマー型痴呆症」等使用されています。
この講座では医学用語として「痴呆症」を用いていますので予めご了承下さい。

当日のスナップ



痴呆（認知症）を正しく理解しよう

神戸学院大学
人文学部人間心理学科
教授 博野 信次

日本は今、超高齢社会を迎えており、それにともない痴呆（認知症）を有する患者さんも増加しています。痴呆についての社会的関心は非常に高まっており、痴呆という言葉を知らない人はいない程になっていますが、正確に理解されている方は、実はそれほど多くありません。

一般の方がよくお使いになる言葉に「ぼけ」があります。「ぼける」という言葉を広辞苑で引きますと「頭の働きや感覚などがぶくなる。ぼんやりする。もうろくする。『年のせいでぼける』」と記載されています。このように、「ぼけ」とは、この正常な老化による知的機能の低下のことで、加齢により全ての人にやがて訪れ、この範囲内であれば、健康な社会生活を送るのに支障はありません。

一方、痴呆は、「ぼけ」とは全く異なった概念で、脳の病気によって生じる広い範囲の知能の低下のことで、知能低下のうち最も重要なものは記憶障害です。正常な老化による物忘れと違って、経験自体を忘れること(例えば、食後すぐに、食事の内容だけではなく、食事をしたことまで忘れる)、また、忘れていたことも忘れてしまい、病気であると自覚できないことが特徴です。記憶障害だけではなく、計算能力、抽象思考能力、言語機能、判断力など広範な知的機能に障害が生じ、社会生活が困難になります。

痴呆の原因となる病気を総称して痴呆症といいます。痴呆症には次のようなものがあります。

- イ)治療が困難な疾患：アルツハイマー病などの変性疾患があげられます。現在も原因が解明されておらず、残念ながら根本的な予防法も治療法もありません。
- ロ)予防が重要な疾患：多発性脳梗塞などの血管障害があげられます。一度発症してしまうと根治することはできないのですが、有効な予防法が確立してきています。
- ハ)治療が可能な疾患：脳腫瘍などの脳外科的疾患、甲状腺機能低下症やビタミン欠乏症などの代謝性疾患、脳炎や髄膜炎などの炎症性疾患があげられます。

治療が可能な痴呆症に対しては、投薬、外科手術などの根本的治療を行います。血管障害に対しては、動脈硬化を引き起こしやすくする危険因子(喫煙、大酒、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、痛風、心臓病など)のコントロールを行うことにより、発症を予防することが重要です。アルツハイマー病などの変性疾患に対しては、根本的な予防や治療はできませんが、脳内伝達物質の補充療法などが行われるようになってきています。

痴呆は老化によるものではなく、病気が原因です。痴呆が疑われる場合には、年齢のせいと考えて放置することなく、医療機関を受診し、早期診断と適切な治療を受けることが必要です。

認知症の病態と病理

—ここまで解った認知症のメカニズム

刀根山病院神経内科
部長 藤村 晴俊

脳の病気の最終診断は、解剖によって、脳を顕微鏡で調べて確定します。認知症は、大脳皮質の広い範囲で、神経細胞（ニューロン）が壊れることによって起こりますが、その理由として、血管障害（脳梗塞や脳出血）、変性（ニューロンがゆっくり崩壊、消失してゆく）など、種々のものがあります。もっとも重要なものとして、変性性の認知症について解説します。

アルツハイマー病

大脳皮質（特に辺縁領域や連合野）のニューロンの突起に、変性したβアミロイドというたんぱく質がたまって（老人斑）、ニューロンを壊していきます。次いで、ニューロンの中にこれもまた変性したタウという物質がたまり（神経原線維変化）、ニューロンを破壊します。これらの変化は正常の老化でも見られますが、アルツハイマー病では、特に65歳以前に発症した例で、圧倒的な量出現し、大脳は胡桃の実のようにやせてしまいます。その理由として、家族性アルツハイマー病の遺伝子の研究から、βアミロイドの産生・分泌亢進、分解能力の低下が根本的な原因と考えられています。

ピック病、前頭側頭葉変性症

アルツハイマー病に比べると頻度は少ないですが、前頭葉、側頭葉といった大脳の前半に局限したニューロンの脱落、萎縮を呈する疾患群です。アルツハイマー病とは違って、記憶障害よりも、性格変化、失行症状など独特な症状で始まり、進行性に全般的認知症に至ります。病因は不明で、大脳皮質のやせている部分に空胞変性、ニューロン脱落、時にピック小体と呼ばれる、ニューロン内封入体や、風船状ニューロンが見られます。

その他の変性性認知症

パーキンソン病のなかに（約10%）、大脳皮質ニューロンにも、多数のレビー小体（一般のパーキンソン病では主に黒質のみ）が出現し、認知症の症状を呈するパーキンソン病痴呆があります。また、パーキンソン病とよく間違われるものに大脳基底核変性症があり、大脳皮質（特に前頭頭頂葉）と黒質、基底核といった特定の部位に、風船状ニューロンや、変性したタウ蛋白がニューロンとグリアの中にたまるのが特徴です。

痴呆（認知症）の治療とケア

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
神経内科部長 井上 貴美子

1. 「治らない痴呆」かどうか

痴呆症状の中には、思わぬ病気が隠れていることがあります。脳腫瘍、正常圧水頭症、薬剤性認知機能低下など、正しい診断と治療によって改善する可能性のある病気を見逃さないためには、早めに医療機関を受診することが大切です。また、変性性の痴呆（認知症）であっても、初期には薬で物忘れが改善することがあります。疾患に応じた治療を受けましょう。

2. 認知症かな？と思ったとき、また、家族が痴呆（認知症）と診断されたら・・・

最近少し物忘れがひどい、おかしなふるまいがある、などに気づいたときはどうすればいいのでしょうか。

- まず、さりげなく変化を観察しましょう。病気による症状だということをつまみ、失敗を責めたり、馬鹿にしたりしないようにしましょう。
- 早めに病院や保健所に相談し、原因となる病気についての診断を受けましょう。
- いったん診断がついたら、家族ぐるみで病気と症状について学び、理解するよう努めます。また、普段一緒に暮らしていない家族や親戚にも、本人が病気であることを話して理解と協力を求めることをお勧めします。
- 認知症のケアの目標は、①本人が「今この時を」安心して快適に生活できること、②介護者・家族のストレスをできるだけ少なくすること、です。病期に応じて家庭・家庭外でのケアの手段をうまく使い分けていくことが大切です。介護保険制度や地域の福祉政策はできるだけ早いうちから利用しましょう。
- 最近、一人暮らしや認知症のお年寄りを狙った詐欺が横行しています。家族が知らない間に大変な事態にならないように、成年後見制度を利用しましょう。